

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成30年度)

施設の名称	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター
指定管理者の名称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
施設所管部課(室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成21年 4月～平成24年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
平成24年 4月～平成29年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
平成29年 4月～令和 4年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
	所在地	宮城県利府町神谷沢字菅野沢41
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日(5か年)	
募集方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター		
所在地	刈田郡蔵王町遠刈田温泉字上ノ原162-1		
設置年月	平成6年4月		
根拠条例等	自然観察センター条例		
設置目的	優れた自然と多種多様な野生動植物との触れ合いを通じて県民の自然保護思想の向上に資するため、自然観察センターを設置する。		
施設の内容	敷地面積	6,149.99㎡	
	構造	鉄筋コンクリート造 一部2階建	
	内容	1階 504.37㎡	2階 623.70㎡
開館(所)日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(休日,日曜日,土曜日を除く)を除く日 ◇ 12月28日から翌年の1月4日までを除く日		
開館(所)時間	午前9時～午後4時30分		
指定管理者が行う業務の範囲	(1) 自然保護思想の普及及び啓発に関すること。 (2) 自然環境の保全に関する学習に対する支援に関すること (3) 蔵王野鳥の森の自然環境についての情報の収集及び提供に関すること。 (4) 自然観察センターの維持管理に関する業務 (5) 上記の他、自然観察センターの設置目的を達成するために知事が必要と認める業務		
利用料金制	採用の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	利用料金の名称	入館料	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
開館(所)日数	307 日	307 日	307 日	100.0%	100.0%
延べ利用者数	10,000 人	10,288 人	9,535 人	95.4%	92.7%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
有料入館者	3,075 人	2,897 人	3,292 人	107.1%	113.6%
無料入館者	6,925 人	7,391 人	6,243 人	90.2%	84.5%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	10,000 人	10,288 人	9,535 人	95.4%	92.7%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
県指定管理料	23,704	23,704	23,704	100.0%	100.0%
利用料金収入	1,000	928	1,054	105.4%	113.6%
その他	1,046	1,153	1,330	127.2%	115.4%
収入計 (a)	25,750	25,785	26,088	101.3%	101.2%

(2) 支出

人件費	15,126	14,894	14,395	95.2%	96.6%
施設管理費	3,340	3,009	3,256	97.5%	108.2%
事業運営費	6,653	6,915	7,328	110.1%	106.0%
自主事業費	631	966	1,100	174.3%	113.9%
支出計 (b)	25,750	25,784	26,079	101.3%	101.1%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	1	9		900.0%
前期繰越収支差額	67	66	67	100.0%	101.5%
次期繰越収支差額	67	67	77	114.9%	114.9%

※ 自主事業の収支実績

収 入	1,000	1,078	1,202	120.2%	111.5%
支 出	631	966	1,100	174.3%	113.9%
収 支	369	112	102	27.6%	91.1%

6. 評価対象年度(平成30年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
①管理運営体制	<p>所長1名・管理職員1名・準職員7名・経理サポーター1名で管理運営に当たりました。管理運営の内容は「自然と人との共生」を基本コンセプトとして</p> <p>① 教育機関に野外体験の場としての有効性をPRし、利用者向上を図りました。また、蔵王自然の家と協力体制を継続し利用者の利便性を向上しました。</p> <p>② 蔵王野鳥の森観察路の利用の勧めとガイドを強化し、癒しの空間を提供するとともに、施設を活用したイベントを多数実施しました。特に夏の沢遊び、カブトムシさがし隊、冬の餅つき体験、雪上トレッキングは好評を得ました。そして地元に着した愛される施設を目指し活動しました。</p> <p>③ ことりはうす・蔵王野鳥の森は安全・安心は当たり前への考えに立ち、随時巡視を実施し危険箇所があれば即日に 応急処置を実施しました。</p> <p>以上のことを、効率的、効果的に運営を行うために人材の育成を継続的に高い効率化に繋げました。資質や能力の向上策としては</p> <p>① 自然観察会のスキルアップ研修で他施設の観察会に参加しました。</p> <p>② 刈払機、チェーンソー、工作機械の取扱いの内部安全研修を実施しました。</p> <p>③ イベント企画力向上研修として他の施設への視察を行いました。</p> <p>以上のことを実施しました。また、管理運営に当たり甲種防火管理講習修了者及び宮城県防災指導員、乙種4類危険物取扱者免状所持者をもって人員配置しました。</p>	<p>計画通りの人員で管理運営に当たりました。教育機関に蔵王野鳥の森を活用した自然体験及びことりはうす利用の周知活動を行いました。特に県南部と仙台市の小学校及び福島県北部小学校の合計290校へ利用促進の案内状を送付しました。</p> <p>建屋周辺を整備し、利用者の多くが蔵王の自然を享受できる環境を提供するとともに、生物多様性のイベントを2回開催して自然への理解を深める啓発活動を行いました。</p> <p>地元宿泊施設と協働でイベントを行い、こけし館など他の施設へイベント協力をしました。自主イベントについては参加者の意見を取り入れて、既存イベントに加え新規を数種企画し、各年代層に合わせたイベントを実施しました。冬期間は好調な雪上トレッキングに加え、家族体験イベントとして、日で餅つき大会及び雪遊びを実施し好評でした。</p> <p>蔵王野鳥の森の整備は作業ボランティアの協力を得て、計画的かつ効率的に実施し、困難な危険木の処理に関しては当協会の専門部会の協力のもと安全な処理を心掛けました。</p> <p>展示物の解説マニュアルの見直しと解説内容の統一を図るため展示物解説マニュアルを改訂しました。</p> <p>自主イベントは総数85回実施し、参加人数は1,062人でした。平成29年度は88回で参加人数は915人でした。参加人数は29年度比116.1%になりました。</p> <p>入館者と入館料は平成29年度比 入館者数:92.6%(9,535人) 入館料収入:113.6%(1,054,300円) で入館料は目標を達成しましたが、入館者数は目標を下回る結果になりました。</p>	A	<p>入館者数は平成27年度の入山立入規制後激減したが、少しずつ回復してきているところであり、入館者数は目標を下回ったものの様々に工夫を凝らした自主イベントの参加人数は前年度比116.1%となっている。県南部や仙台市及び福島県北部の小学校へ施設の内容(イベント)を周知するなど、入館者促進に努めていることから、今後の入館者増が期待できる。</p>	A
②施設・設備の維持管理業務の実施	<p>「施設の保守・管理に関する業務計画」に従い各業務を実施しました。</p> <p>外部委託の進入路除雪業務では降雪時に管理車道、駐車場及び上部駐車場までの除雪を行い、除雪車の範囲外は職員が処理に当たりました。</p> <p>職員が実施する業務として</p> <p>○ 巡回時のいち早い危険木や枯損木の発見と、観察路のゴミや枝など障害物の撤去を心掛けて行いました。</p> <p>また、有害動植物の説明や園内動植物の情報提供を行うための観察巡視も行いました。</p> <p>○ 展示・案内・解説は1階にモニターを設置し、デジタルコンテンツによりわかり易い解説ができるようにしました。</p> <p>また、各観察路の図解を行い、標高と主に観察できる樹木を表示しました。</p> <p>○ 建屋、貸与品の軽微な修繕は職員が実施しました。</p> <p>○ 野鳥の森観察路の維持管理では各観察路の枯損木の伐採、階段・木橋の軽微な補修や危険ボルトの撤去、土砂流出箇所や排水溝の修繕を行いました。また利用者が歩き易いよう笹刈り払いを順次行いました。</p>	<p>業者委託分は予定通り行いました。職員が実施する業務では</p> <p>○ 巡回指導は巡回時に巡視報告書を作成し、職員間の情報の共有化することで効率的に森林整備を行いました。</p> <p>○ 展示・案内・解説は希望者に館内の案内をすることで入館者とのコミュニケーションを図り、入館者のニーズの掘り起こしをしました。</p> <p>○ 照明器具はLEDに変えられる箇所を変更し、省エネを心掛けました。</p> <p>○ 1階の野鳥解説モニターは利用者の声を反映し、使い易く変更しました。</p> <p>2階のモニターは定点観察カメラで撮影した野鳥の森内の野生動物を常に視聴できるようにしました。</p> <p>○ 観察路の維持管理は計画的に行い、また野鳥の森で行うイベントを考慮して適時適切な整備を行いました。</p> <p>○ 建屋周りの森林再生整備をし、生物多様性イベント等に利用できるようにしました。</p>	A	<p>利用者の声を反映させ、野鳥観察モニターを使いやすしたり、定点観察カメラで撮影した野鳥をモニターで常に視聴できるようにしてことは評価できる。</p> <p>また、施設・整備の維持管理として、巡回時の巡回報告書を作成することで、職員間の情報の共有化を行っていることはとても有効だと思います。</p>	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<p>多数の幅広い年齢層の県民がいつでも気軽に訪ねられるように、以下の施策を設定し運営を行いました。</p> <p>① 展示学習プログラム</p> <p>特別展示コーナーに生物多様性を普及啓発するためのポスターを展示しました。また、森林整備の仕事、及び蔵王の自然を知ってもらうための写真展示を館内の空きスペースを利用して展示しました。教育関係や児童館などへ利用手引きを行い、伴って館内の常設クラフトコーナーの材料を充実させました。</p> <p>② 自然体験プログラム</p> <p>自然観察の「野鳥の暮らしを知ろう」を年に3回シリーズで実施、野鳥の森案内は毎週日曜日ごとに特徴のある内容とし、参加者の選択肢を広げました。</p> <p>③ ものづくり体験プログラム</p> <p>お手軽木工をメインに制作できる種類を増やし参加者のニーズに対応しました。</p> <p>④ 広報活動強化プログラム</p> <p>ことりはうすのHPやブログを随時更新し、イベント情報や施設案内を提供しました。他の公共施設にも各種情報を掲示し、市町村の広報誌にも各種案内・情報を掲載しました。</p>	<p>① 展示コーナーの活用や総合学習のプログラミングの働きかけを行ったことや無料クラフト体験コーナーを設けたことで、利用者の滞在時間が延び、満足度アップに繋がりました。</p> <p>② 来館者の要望を取り入れ、野鳥の森ガイドを毎週実施し森の案内と子どもハイキングに分けてストレスなくガイドウォークに参加してもらえるようにしました。また、野鳥の暮らしを知ろう、では食の体験を取り入れた事により参加者の満足度が向上しました。</p> <p>③ ものづくり体験</p> <p>見本の数を増やしたことに加え、工作道具を揃えたことで幅広い要望に対応できました。</p> <p>④ ホームページや各市町村の広報誌にイベント情報や施設案内を記載しました。JAF、イベントJOY、子育て支援誌、s-style、へ情報を提供したほか、みやぎ自然ふれあい情の森、みやぎまるごと探訪、じゃらん家族旅行などのHPへの情報提供も行い、利用者アップに繋がりました。また、NHK・TBCラジオ・宮城TV・FM仙台で放送されたことでことりはうす情報を広く周知することができました。HPは画像を多くして見やすく、ブログも含めタイムリーな更新を心がけました。</p>	A	<p>無料クラフト体験コーナーを設ける等により利用者の滞在時間が延びたことは評価でき、今後もいろいろと工夫し利用者の満足度を向上させてほしい。</p> <p>また、各市町村の広報誌等を活用したPRを行ったり、ホームページも見やすさを心がけたタイムリーな更新に努めていることは評価でき、今後も参加意欲を上げるための工夫に努めてほしい。</p>	A

④自主事業の実施	蔵王の食文化や野鳥の森の歴史などを取り入れた企画を多くしました。蔵王野鳥の森自然観察センター自主企画事業を85回実施し1,062人の参加を得ました。	平成30年度は平成29年度並みの85回のイベント数を行うことができました。参加人数は昨年度比で116.1%の1,062人となりました。	A	蔵王の食文化や野鳥の森の歴史などを取り入れた企画で前年度並みの回数を開催し、参加人数も昨年度を上回っており、来館者の増加につなげていることは評価できる。	A
⑤利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> 館内のクラフト体験コーナーの利用者が増え待ち時間が長くなったことを受けクラフト体験コーナーの増設を図りました 野鳥の森を気軽に散歩できるように定期的にガイドを実施し、希望に応じて随時案内を実施しています。 利用者の声を受け、管理車道入口に「蔵王野鳥の森」看板を設置し園内草花の開花情報やイベント情報を発信するようにしました。 2階ホールのモニターで野鳥の森の野生動物の映像が見れるようにしました。 2階ホールの特別展示コーナーには生物多様性のパネルを展示し、理解を深めてもらえるようにしました。 無料開放日として4月29日(開館記念日)、5月10日～5月16日(愛鳥週間)及び毎月第4水曜日を継続しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味を引くものを置いたことで、ゆっくり過ごす家族連れの様子が目立つようになりました。 野鳥の森ガイドは子どもの目線に立った案内ができるよう、子ども向けのハイキングを実施しています。また、参加者の体力に応じて組を分けて案内するなど、臨機応変に対応して参加者に満足してもらえる案内を心掛けました。希望があれば、平日でも森のガイドを行ないました。 ネイチャークラフト体験コーナーの常設と写真・クラフト等の展示コーナーの活用及び無料開放日は予定通り実施しました。 蔵王の自然をより多くの利用者が享受できるように建屋周辺の各広場を再生整備しました。また、定点観察カメラを森内に設置し館内で視聴できる環境を整備しました。 森の利用者に対しては、プリントアウトした地図の裏面に等高線入りの地形図を入れることで、歩きやすさの目安がつけられるようするとともに、見ごろの花や紅葉の情報小冊子を配布して分かり易く森に親しんでもらう活動を継続しました。 	A	利用者の増加に伴いクラフト体験コーナーの増設を行ったり、蔵王の自然をより多くの利用者が享受できるように建屋周辺の各広場を再生整備したことや定点観察カメラを森内に設置して館内で視聴できる環境を整備しており利用者へのサービス向上に努めている。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	利用者の意見、要望等は「ご意見カード」に記入していただいております。設置場所は入館者受付カウンターと2階休憩コーナーの2か所に設置しました。また、寄せられた意見や要望等に対しては迅速に対応しました。	<ul style="list-style-type: none"> ご意見カード回収数:73枚 意見記載カード:51枚 意見対応枚数:8枚 <p>意見や要望については目標通り全てに対応しました。</p>	A	ご意見カードの意見や要望等に対して迅速に対応している。	A
⑦安全対策	各観察路の沢に架かる階段の補修工事、枯損木の伐採、横断溝の修繕、法面の補修、土砂流出箇所等の修繕の実施。また、道標の破損部分の修理や観察道分岐点の明確な表示を行いました。防災に関しては消防計画に基づく各種点検の遵守と自然災害を考慮した防災計画を作成し運用しました。なお、災害や事故発生時に職員が滞りなく連絡は取れるように緊急連絡体制を整備し明示しています。また、緊急を要する傷病等の発生に備え、近隣の病院の連絡先を事務所内の目立つ場所に掲示しています。	観察路の安全管理は計画的な巡視と、その結果に基づき対応しています。消防計画に準拠した防火管理と消防訓練を年に2回実施しました。また、自然災害(地震、噴火、大雨、大雪、暴風、落雷)を想定した防災計画を作成し運用しています。	A	観察路については、常に巡視し補修等を行い利用者の安全が図られている。また、自然災害(地震、噴火、大雨、大雪、暴風、落雷)を想定した防災計画を作成し運用していることは評価される。	A
⑧県民の平等利用	利用者の平等利用のために、特定の個人や団体、グループに対し有利や不利にならないようにしました。特に障がいを持った方や弱者に対しては可能な限り安全かつ負担にならないように対応しました。一方、行為の制限や入館の拒否などの事項が発生した場合にも当該者が十分納得できる説明を心がけました。また、野鳥の森とことりはうすが県民に等しく開かれた施設であることを周知してもらうために、県内の公共施設・民間施設・マスコミ関連各社などへ、園内の施設利用や各種イベント情報の提供を積極的に行いました。	利用者によって有利や不利にならないのは当然ですが、障がいを持った方や弱者のために案内板や掲示板の文字を大きくしました。また、館内の案内時も声を大きくゆっくり説明するようにしました。行為の制限や入館拒否などの事例は発生しませんでした。ホームページや各市町村の広報誌にイベント情報や施設案内を記載しました。また、TBCラジオや宮城テレビ及びNHKで放映したことで、ことりはうす情報を広く周知しました。なお、より広範囲に情報提供を行うため、地元観光協会と協働で情報の発信を行いました。	A	利用者により有利・不利にならないよう配慮されており、多種多様な利用者に適切な対応が心掛けていることは評価される。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	蔵王野鳥の森自然観察センターの管理に関する協定書第21条を遵守し、イベント参加者等からの個人情報の収集は本人に十分説明し実施しました。特にご意見カード協力者やイベント参加者の個人情報は集約化し、管理事務所長を個人情報保護管理者に定めて責任を明確にしたうえで管理保管をしました。また、職員へは個人情報取り扱い関連書類の閲覧や日常の業務連絡で周知徹底しました。特にイベント受付者には、その都度注意を促し終了時には速やかに情報の移行を励行しました。	左記のとおりですが、イベント参加者の名簿はイベント終了時に速やかに個人情報管理者に移行するようにイベント時ごとに注意を促しています。また、ことりはうすボランティア名簿も個人情報として管理し取り扱うよう指示徹底しています。個人情報は全て金庫に保管し施錠しています。	A	個人情報の管理について、適切に取り扱われている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおりです。	○利用料金収入：平成29年度比 113.6 % ○利用者数：平成29年度比 92.6 % ○自主企画収入：平成29年度比 111.5 %以上の結果となりました。	A	利用者数は前年度比で若干減少したが、利用料金及び自主企画収入が増加したことは評価できる。	A
⑪収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおりです。	費用対効果を考慮した予算の活用を行いました。	A	収入、支出ともに前年度より増加しており、収入に見合った費用対効果を考慮した予算活用となっている。	A
⑫その他の取組	蔵王町農林観光課の依頼でインバウンド招致の案内を行い、また、ろくろまつりへ出店するなど関係を密にしました。自然の家へはガイド派遣や自然の家利用者の積極的な受け入れなど、協力関係を築きました。また、施設運営の客観的判断を得ることを目的に外部評価委員会を設置しています。近隣の宿泊施設と夏休み期間を利用した協働イベントを企画し、事業の拡大を図りました。環境配慮の取り組みについて、県の環境保全率先実行計画に準拠し、環境負荷の低減に努めました。	外国人の利用者が若干みられるようになってきました。フリーwifiの利用を可能にすることで受け入れ態勢を進めました。蔵王自然の家と協力体制を取ることで入館者増が図られました。様々な事業を行い、近隣施設や住民と交流を重ねることで施設の周知を図ることができました。また、外部評価委員から建設的な意見が提案され施設運営の品質向上に繋がりました。	A	入館者数は前年度より減となっているが、蔵王町との関係を密にしたり、蔵王自然の家との協力体制を図る等、入館者数の増加へ向けた取組は評価されます。引き続き、様々な方法により施設の周知に努めてほしい。	A
総合評価		指定管理第3期2年目に当たり、事業計画書に則り管理運営を行いました。利用者数は前年度比で減、入館料収入は前年度比で増となりました。しかし、外部評価委員会の様々な意見からの活動。並びに、仙台市や県南部及び福島県北部の各小学校に「ことりはうす」利用促進の案内状を送付し次年度に繋がる活動を実施しました。	A	誠実に管理運営されており、努力と工夫も十分評価に値します。また、蔵王山の影響による入館者数も、平成30年度は前年度より少し減となったものの回復しつつある状況であることから、更に当該施設の認知度向上に向けた新たな取組に期待します。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	1 学校関係の施設利用者の増加対策 学校関係の利用が減少傾向にあり、年間利用者数に影響を与えています。よって誘致活動に力を入れる必要があるという思いで、各教育機関用に工夫した案内状送付や直接に向いて利用促進活動を実施しています。また、蔵王自然の家との協力関係を強化し、便宜を図るなどして学校団体の利用増を図るとともに一般の利用者に対しては地元の観光協会、観光情報誌や子育て支援誌及び各市町村の広報誌へ情報発信の強化を行ってまいります。 2 園内の安全対策と各観察路の快適化 野鳥の森内の工作物の老朽化が激しく、観察路階段や法面土留め及びベンチや案内板などの軽微な補修に関してはこまめに対応してまいります。観察路の枯損木(危険木)は増加傾向にあり、定期的な巡視で早期発見・迅速な処理に努めます。また、観察路の不具合については利用者からの情報提供も重要と認識し、利用者の情報を取り込んだ定期巡視で適切な処置に努めます。	蔵王山立入制限等の影響による施設利用者減について、平成30年度は前年度より減となったものの回復しつつある状況にある。今後は更なる利用者増のため新たな企画を実施するとともに、各関係機関との関係を密にし、施設事業の情報発信に努めてほしい。 軽微な修繕のほか、安全確保のためにも計画的に必要な更新等を行っていく必要がある。